

アジアにおける NCGMの事業・活動

国立国際医療研究センター

理事長

國土 典宏



NCGMが有するアジアとのネットワーク

JICAの技術協力プロジェクトを通じた職員の派遣及び研修の受け入れ

- これまで、134か国に述べ3,8795回の派遣及び147か国から延べ4,544人の研修受け入れ実績（1986年～2016年3月）。
- 現在、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー、モンゴルでプロジェクト実施中。
- 内容は、母子保健、感染症対策、保健医療人材の育成、地域保健などが含まれる。
- 過去には、中国（ポリオ根絶）やタイ（HIV/AIDS対策）、アフガニスタン、バングラデシュ、パキスタン（母子保健）、インドネシア（地域保健）などに対しても協力を行ってきた。

WHO, WPROとの連携の実績

1. 「保健システム開発」分野、「新興感染症の予防と対応」分野でそれぞれWHO協力センター（WCC）、「HIV/AIDS」の分野でWHOのTechnical Partnerに位置付けられている。
2. 専門家の派遣：WPROの母子保健、HIV/AIDS部署、およびパプアニューギニア国事務所
3. WPROと協力して、「医療の質と患者安全」に関するセミナーや、「新生児ケア」に関するセミナーなどを共同開催。
4. WCCの地域会議や、予防接種やUHCの技術審議委員会などへの出席と技術的提言の実施。
5. WPROと協力して、国連機関へのキャリアデベロップメントのワークショップを開催。

協力協定を基にした海外拠点事業

8カ国10機関の協力機関※を拠点に、
：糖尿病、結核、HIV/AIDS、マラリア、多剤耐性菌、院内感染などの共同研究、
・「ベトナムへの日本の援助」に関する研究
・当該国の職員や日本人専門家の人材育成などを行っている。

※ 2018年1月に新たにフィリピン大学マニラ校を加え、9カ国11機関となる予定



フィリピン共和国
● フィリピン大学マニラ校(予定)



タイ王国
● マヒドン大学



ウズベキスタン共和国
● サイエンスアカデミー免疫学研究所



インドネシア共和国
● スリアンティ・サロツソ感染症病院



カンボジア王国
● 国立母子保健センター



ベトナム社会主義共和国
● パクマイ病院
● チョーライ病院



ネパール連邦民主共和国
● 国立トリブバン大学医学部



ミャンマー連邦共和国保健省
● 公衆衛生局
● 保健医療サービス局



ラオス人民民主共和国
● 国立ラオスパストゥール研究所
● 国立公衆衛生研究所

医療技術等国際展開推進事業（厚生労働省委託事業）



NCGM

事業の趣旨：日本の医療制度に関する経験共有、医療技術の移転、医薬品や医療機器の国際展開の推進等を通じ、相手国の公衆衛生水準や医療水準の向上に貢献

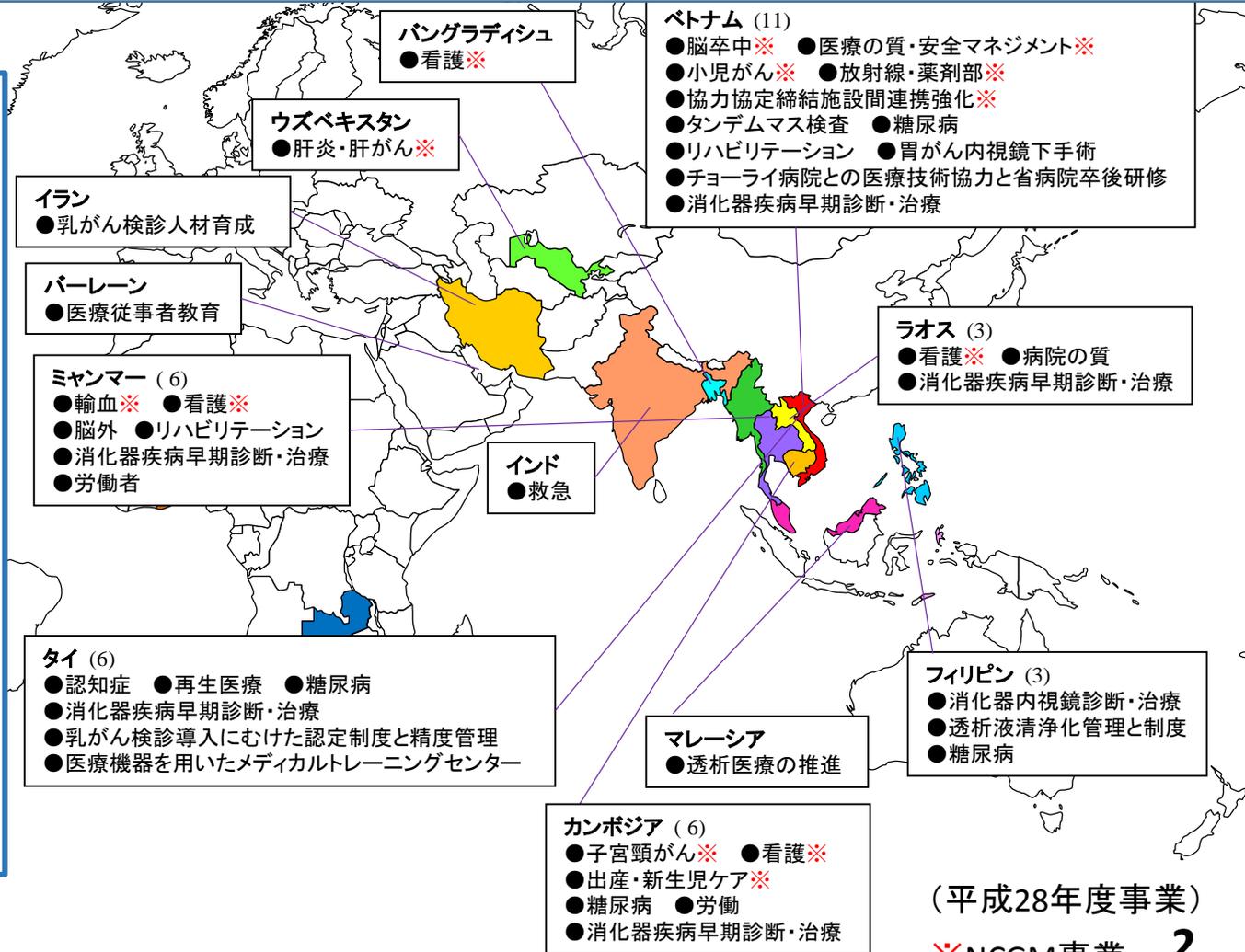
実施機関：日本の企業、病院、大学など

事業内容：日本の専門家や技術者の関係国派遣や保健医療関係者等の研修受入

実績：3年間で、合計25か国、90研修事業を実施し、昨年までの2年間で、延べ542名の日本人専門家派遣、延べ486名の研修生を受け入れた。

・対象国：アジア地域では、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー、 Bangladesh、フィリピン、タイ、インドネシア、マレーシア、インド、イラン、バーレーン、ブルネイ、トルクメニスタンなど。開発途上国のみならず新興国を含む世界全体で合計25カ国。

・内容：内視鏡、透析、脳外科、リハビリ、糖尿病、放射線といった直接、診断や治療に関わる臨床的な技術から、栄養、輸血、救急、がん検診、人間ドック、特定健診、医療の質と患者安全といった、予防医学や保健システム作りなどに関する事業など多岐に渡る。



(平成28年度事業)

アジアを中心とした国際連携型“グローバル臨床研究ネットワーク拠点形成”

概要

豊富な国際医療協力の経験を有し、クリニカルイノベーションネットワークなど先進的な活動を行っている国立国際医療研究センター（NCGM）において、国際的な診断治療法の開発が求められる難治性・希少疾患や新興感染症、日本が研究開発経験を多く有するNon-Communicable Diseases（NCDs）の各分野について、各国の人材を集結したグローバル臨床研究ネットワークの拠点を整備し、日本の医療の国際展開を通じたグローバルヘルスへの貢献を進める。

対象領域： NCGMの国際経験と研究活動を生かした新興・再興感染症、難治性疾患・希少疾患、生活習慣病など各領域



- NCGMでは現在、国際共同臨床研究のプラットフォームを実証するためのテストトライアルプロジェクトとして、小児希少疾病について国際共同治験の実施を構想中
- まずは、これまでの医療協力においてNCGMとの連携関係の深い国・施設からと人材育成等の事業を開始し、経験を踏まえて他のアジア諸国にも拡大していく

小児難治・希少疾病を対象



- 複数の国で協力することにより、治験対象症例数を集めることが可能

アジア現地国でのGCP環境を整備



- アジア各国の治験環境の向上
- 今後の国内外製薬企業のアジアでの治験実施基盤整備に貢献

NCGMインターナショナルトライアル部において収集する各国の医薬品規制情報のアップデート



アジア各国で異なる医薬品開発や治験のニーズを提供可能

アジアでの小児希少疾病レジストリの構築に着手



- アジア全体での臨床研究の基盤となる
- 将来的な承認申請データの補完、販売戦略に寄与

希少疾病に関する国際共同治験計画のロードマップ

